

2024年度 流域圏担い手づくり事例集について

‘25. 2. 7 豊田市矢作川研究所 洲崎燈子

【これまでの事例集づくりについて】

- ・ 中山間地の活性化を進め、過疎化や少子高齢化問題を解決に導く糸口として、持続可能な流域作りに関わる102団体に取材を行い、2013～2016年度にかけて4冊の「山村再生担い手づくり事例集」を、2017～2018年度にかけて2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・ 2019～20年度は事例集づくりを休止し、流域圏懇談会10年誌を作成。
- ・ 10年誌をつくったことで、都市を巻き込んだ流域圏づくりの必要性が認識されるようになり、2021年度以降の事例集は複数の方の取材・寄稿により、ひとつのテーマの立体像を描く様式に変更。2021年度は学童保育木造化プロジェクト、2022年度は錦二丁目都市の木質化プロジェクト、2023年度は伊勢湾・三河湾の豊かさを取り上げた。
- ・ 2017～19年度および2023～24年度には、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催した。

流域圏担い手づくり事例集 (2013～2018年度)



中山間地振興や川や海的环境保全に関わる活動を行う102団体に取材を行い、計6冊の「山村再生担い手づくり事例集」と「流域圏担い手づくり事例集」を発行。

◆事例集のミッション

- ① 現場に行き、直接、現場の人たちの苦悩や喜びや課題に触れる
→ 生の声を引き出す！
- ② その生の声をみんなで共有しよう！
→ 報告集に取りまとめ、流域圏懇談会のホームページにアップ
- ③ 課題をあぶり出す
→ 集い、知恵の交換をする

(2013年6月29日開催 第9回山部会WG資料より)

持続可能な流域圏づくりのためには山、川、海だけでなく、都市域の住民も含んだネットワークづくりが必要と判断し、7冊目からの事例集は都市を巻き込んだ流域圏づくりにつながるひとつのプロジェクトを取材対象に。

(‘24.12.17 公開講座洲崎スライド)

【2024～2025年度の事例集】

- ・ 流域圏担い手づくり事例集Ⅳは 2024～2025 年度にかけ、2冊に分けて作成。
- ・ テーマはこれからの流域づくりのキーワードとなる「人口、税収の減少」「流域治水、水利用、流域環境保全（ネイチャーポジティブ）」を組み合わせた流域総合水管理」「地域住民が自分ごととして取り組む防災」「(仮)伊勢湾流域圏大学」等とする。

流域圏担い手づくり事例集 (2021年度～)

2021年度	2022年度	2023年度	2024～25年度
流域圏担い手づくり事例集Ⅲ	流域圏担い手づくり事例集Ⅳ	流域圏担い手づくり事例集Ⅴ	流域圏担い手づくり事例集Ⅵ
 矢作川流域圏 担い手づくり事例集Ⅲ 学童保育木造化 プロジェクト	 流域圏 担い手づくり事例集Ⅳ 錦二丁目都市の木質化 プロジェクト	 流域圏 担い手づくり事例集Ⅴ 伊勢湾・三河湾の 豊かさを考える	
持続可能な流域づくりのベースとなる「水循環基本法」の理念と、 矢作川流域の都市をまきこんだ川づくりの取組を共有しよう！			

川の水が流れている場所だけでなく、治水だけでなく、流域全体の水の流れを考える「流域総合水管理」を取り上げたいね！

流域のみんなが関わるとっても大事な考え方なんだけど、難しいし、まだほとんど知られていないよね...

寄稿や取材レポートを載せるんじゃなくて、先生方に話してもらったり語り合っていて、それを文字に起こした方がわかりやすいんじゃない？

一人でも多くの人に、「流域総合水管理」を自分ごととして考えてほしいね！

いいね！それで、語られた言葉の中からキーワードを拾って、事例集全体の構成づくりにつなげていこう。



ミライ会議

(’24.12.17 公開講座洲崎スライド)

- ・2024 年度版には 12 月 17 日に開催した公開講座「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理」の記録を掲載し、流域総合水管理の理念を共有する。
- ・2025 年度版には、持続可能な流域に向けて研究や人材育成をしている諸団体・個人が既に(仮)伊勢湾流域圏大学の一端を担っていると位置付け、取材等によって紹介する。候補団体はとよた森林学校、山里ひとなる塾、矢作川研究所、鈴木辰吉氏（しきしまの家）、岐阜県立森林文化アカデミーなど。